

# 落語の寄席定席番組データの 活用と課題

---

坂部裕美子(公益財団法人 統計情報研究開発センター)

# 本日の報告

---

- はじめに
- 寄席定席番組データの集計－方法と分析事例
- 寄席定席番組データの集計－時系列データ分析
- 番組データ活用への課題
- おわりに

# はじめに

---

- 発表者は、アーキビストというよりは各種データアーカイブのユーザーの立場である
  - これまでの研究
    - 歌舞伎公演データベースの作成支援、分析
    - 宝塚歌劇の公演記録(書籍)の集計用データ作成、分析
    - 吉本新喜劇のWeb版公演記録に基づく集計用データ作成、分析
    - 「演劇年鑑」に基づく現代演劇公演データベース作成
    - 落語の寄席定席番組データのテキスト化と分析
    - これらの公演データ構造の相互比較
    - NHK交響楽団の過去の演奏記録の集計 ※元データはHPリニューアル時に非公開になってしまった

# はじめに

---

- そのため、例えば「歌舞伎の舞台の映像」アーカイブより「網羅的な歌舞伎公演記録」のアーカイブを所望している
  - 本学会ではこの種のデータは主筋の「映像」等のアーカイブの「メタデータ」という扱いとされますが、こんな研究者もいます
- 第4回研究大会スピンオフ研究発表会では宝塚データの集計報告を行い、たくさんの興味深いご質問を頂いた
  - 弊財団機関誌「ESTRELA」2020年9月号で再分析を行った
- 個人的に、「落語」と「宝塚」の公演データはとても統計分析向きだと考えている
  - データ件数が多く、それぞれが各種の属性を持っており、一定期間後の到達点に相応に大きな差が出る

# 落語の寄席定席の番組データ集計

- 東京の4演芸場の通常興行のみを対象とする
  - 「実際に高座に上がった回数」ではなく、『出演予定者一覧』に登場した回数を集計
- 正規の出演者として認められている、グレーの線以下の「ニツ目」と「真打」のみを集計
- 「交互」となっている枠は1を同枠出演者の頭数で割った数を登場回数とする
- この回数を、各演者ごとに1年分合計する
- 集計ルールの詳細については予稿をご参照下さい

鈴木演芸場

定席番組を選択

## 鈴木演芸場 9月上席

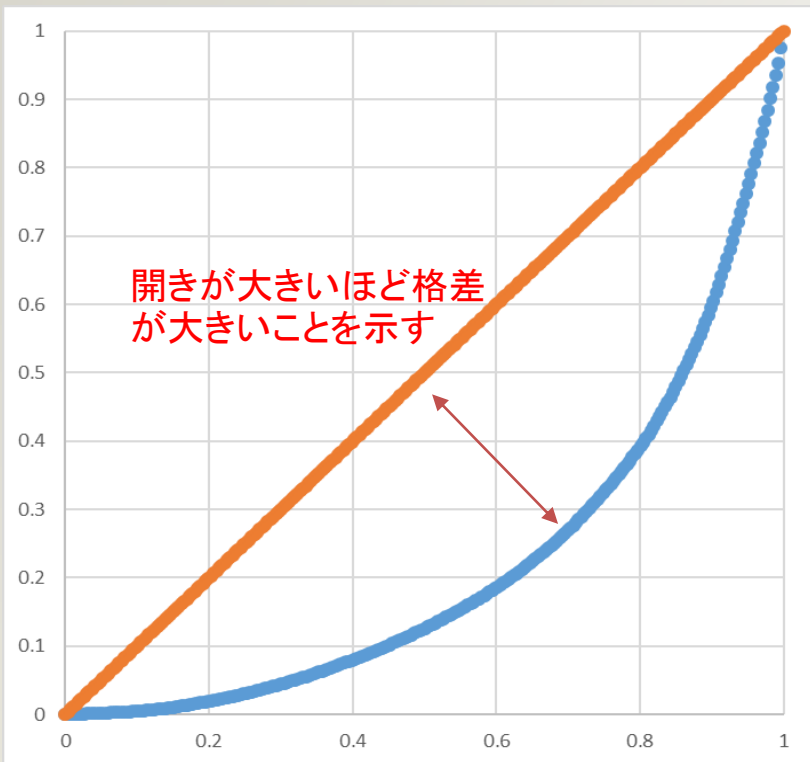
昼席		夜席	
お囃子	柳沢きょう	お囃子	井上りち
	岡田まい		森吉あき
	田中ふゆ		金山はる
前座	古今亭 菊一	前座	春風亭 いっ休
	林家 八楽		金原亭 杏寿
	春風亭 枝次		桃月庵 あられ
	古今亭 まめ菊		三遊亭 歌つを
	柳家 小ごと		林家 やまびこ
	柳家 小はだ		柳亭 市坊
	柳亭 市若		林家 彦星
	交互 柳家 寿伴 0.5		柳亭 市朗
	交互 柳家 小はだ 0.5		柳亭 市童 0.25
	松旭斎 美智 美登 1		交互 柳亭 市弥 0.25
13:00	鈴ヶ舎 馬風 1		柳亭 市江 0.25
	柳家 甚語楼 1		柳亭 市業 0.25
	ロケット団 1		鏡味 仙三郎社中 1
	古今亭 文菊 1	18:00	三遊亭 歌奴 1
14:00	柳家 はん治 1		柳家 小里ん 1
	翁家社中 1		ジキジキ 1
	古今亭 菊之丞 1		三遊亭 白鳥 1
14:50	一仲入り一	19:00	春風亭 一朝 1
	ベベ桜井 1		一仲入り一
	柳亭 燕路 1	19:30	マギー隆司 1
	林家 正蔵 1		柳家 小ゑん 1
	林家 正楽 1		交互 林家 楽一 0.5
			林家 二楽 0.5
16:00	柳亭 こみち 1		柳亭 市馬 1

# 2019年の年間プログラム登場回数

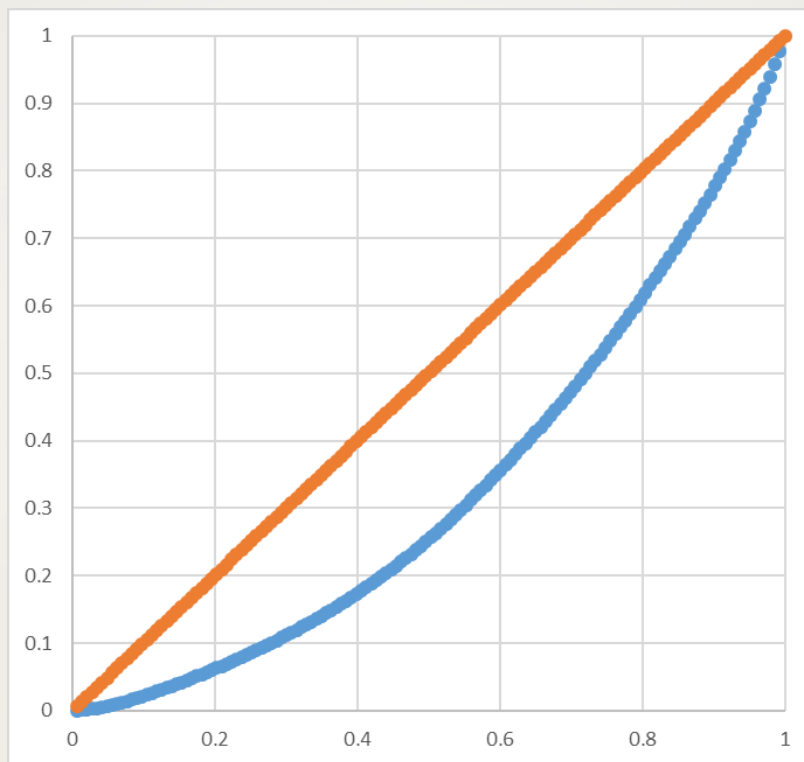


回数が多いことと「上手い」「人気がある」ということとは直結しないが、少なくとも「下手でつまらない人」はあまり頻繁には呼ばれないと考えられる

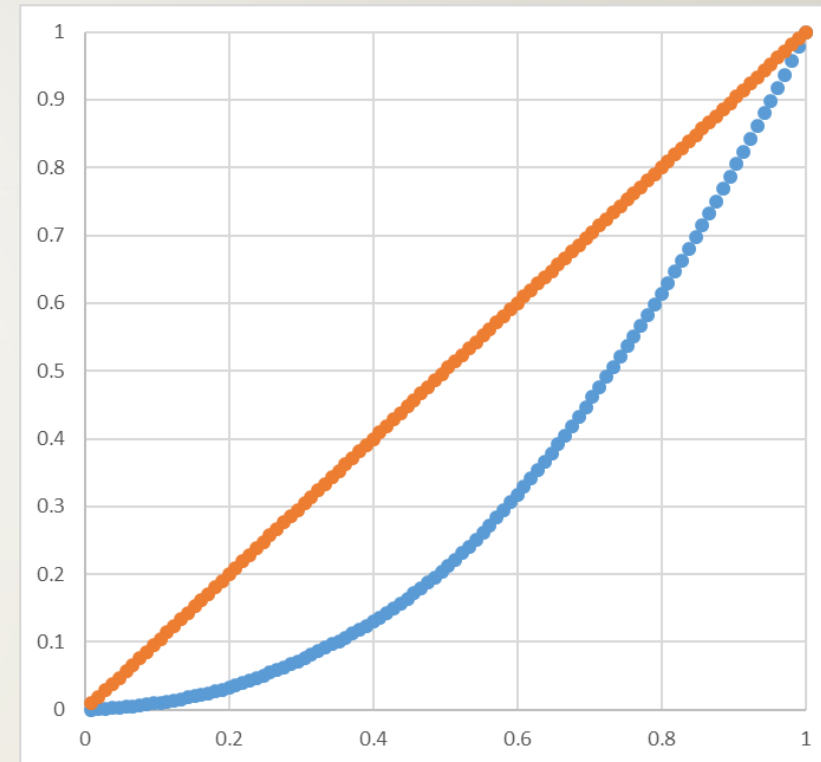
# 通常興行の枠配分の不平等度(ローレンツ曲線を用いた比較・2018年)



落語協会興行



落語芸術協会興行



吉本新喜劇本公演

# 時系列データ分析

---

- ここまでは単年度データの分析だが、過去の番組データを使用できればこれらの時系列比較が可能になる
- ただし、現状ではWeb上でデータを得られるのは現在～今後1か月程度の予定のみ

※発表者は、こまめにWebデータをコピーしておいたものを集計に使用している



# 一門別×世代別の登場回数

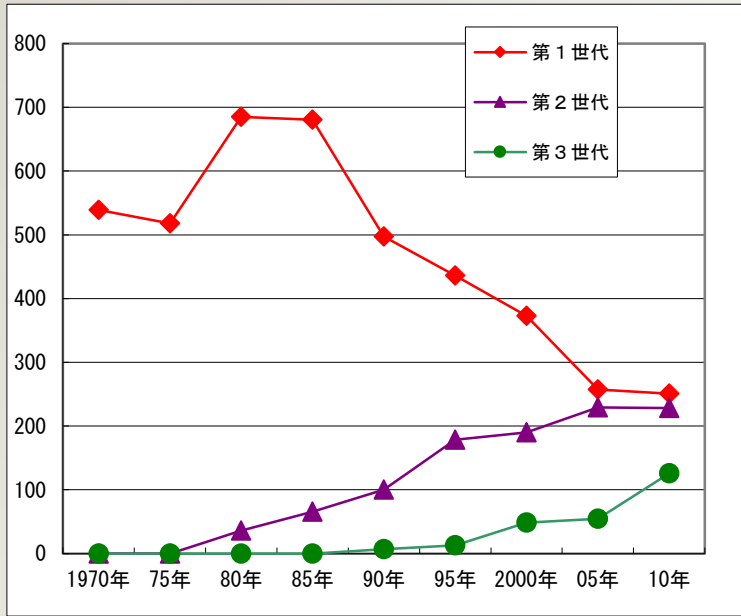
第1世代(1950年以前生まれ)

第2世代(1951～1970年生まれ)

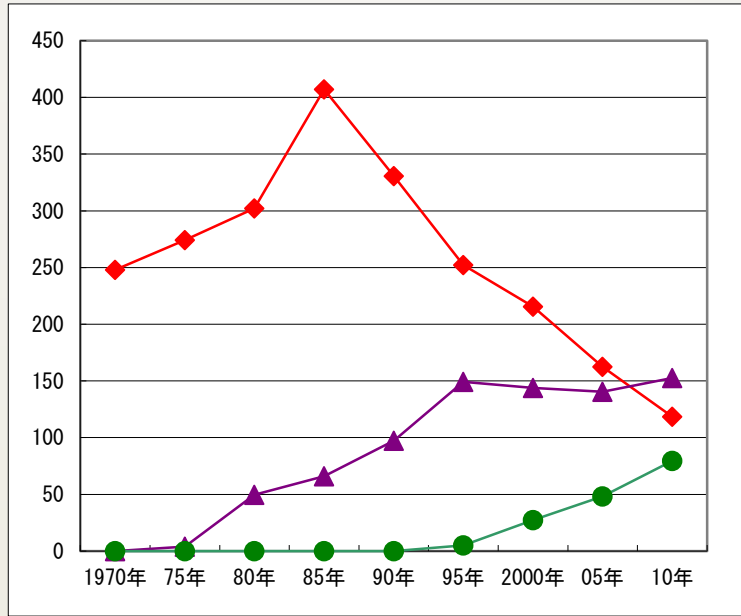
第3世代(1970年以降生まれ)

の落語家の登場回数を、それぞれ合計した値の年次推移  
(「ESTRELA」2011年3月号掲載)

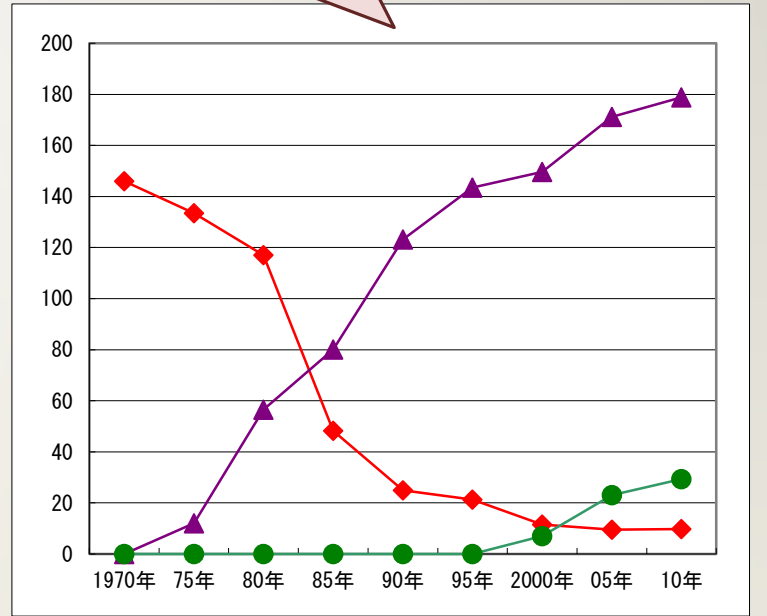
彦六一門の躍進は  
2011年に予見できていた



柳家小さん一門



古今亭志ん生一門



林家彦六一門

# 番組データ活用への課題①

---

- **アーカイブ公開のコスト負担**
  - 落語協会はかつて公式HPで過去数年分のデータを公開していたが、HPリニューアルを境に消滅
    - サーバの容量不足もしくは「閲覧数の少なさ」あたりが理由では？
      - 過去の番組照会への落語協会事務局の公式な対応は「東京かわら版(落語の専門月刊誌)を見てください」
  - かつて落語協会分・落語芸術協会分ともに終戦直後からの番組記録の画像データ化作業が行われており、事務局には長期データそのものはあるはず
    - しかし、落語家の個人情報や事務連絡も同一紙面内に掲載されており、このままでは公開できない
    - そもそも、読むのも大変
  - 協会事務局は専従の職員が数名のみ→細かい質問等に対応できないのでは？

## 番組データ活用への課題②

---

- この手の集計が、当の落語家に好意的に受け止められていないように感じられる
  - 落語家は個人事業主であり、お互いがライバル、という中で外的評価の指標はほとんどなく、はっきりした「ランキング」が出しにくい
    - 強いて言えば、一部の例外以外ほぼ入門順に並べられた「香盤」が唯一の順位表示
  - (少なくともかつては)年功序列色が強く、後輩の活躍を面白くないと感じる人も存在するらしい
    - 十数年前、集計結果を見た当時のある若手(現在は超人気落語家)に露骨に嫌な顔をされた
      - 波風を立たせたくない、という意味の表れ？
- だが、「寄席によく出ている落語家の具体的な顔ぶれ」は、実際には当事者間でほぼ正確に把握されており、厳密な秘匿事項ではない
  - 数値で明示されないからこそ和が保たれている、という可能性？

# おわりに

---

- 未公開の過去の番組データ以外にも、例えば落語芸術協会事務局には「重宝帳」(関係者以外入手できない演芸家の住所録)や毛筆で書かれた過去の番組などの貴重な資料がある
  - ワープロ導入(落語協会1984年4月～、落語芸術協会1981年1月～)後もしばらくの間、初席だけは毛筆で記されていた(現在は「毛筆風のフォント」になっている)
- 落語協会は事務局移転時に過去の資料の大半を廃棄
  - 活用の道を探っておかないと、いずれそうならないとも限らない？
- ここ10年ほどで「数値データ」「実証データ」に対する一般的な認識が大きく変わってきているので、かつてヒアリングを行った当事者たちの意識改革が進んでいることを祈るのみである

ありがとうございました。